
『男女共同参画および女性支援 に関する意識調査』 調査報告書

明治大学男女共同参画推進センター女性研究者研究活動支援事業推進本部 2016年11月



アンケート結果報告

本学構成員を対象とした本学の男女共同参画および女性支援に関する意識調査を、下記の要領のとおり2016年10月～11月に実施しました。その結果を報告いたします。

実施要領

目的:

女性研究者研究活動支援事業の採択によって、本事業の最終年度にあたり、本学構成員の男女共同参画推進の課題意識と女性研究者に対する支援についての理解が深まったかを把握することを目的とする。

対象:

本学教員/専任職員/大学院生

方法:

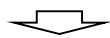
教授会等にて質問紙を配布し実施。当日回収および後日封書にて回収。

期間:

2016年10月7日～2016年11月4日

回答者数:

全体・・・902人(3823名中902名が回答。回答率23.59%)



教員・・・466人(1036名中466名が回答。回答率44.98%)

専任職員・・・374人(553名中374名が回答。回答率67.63%)

大学院生・・・27人(2235名中27名が回答。回答率1.20%)

アンケート調査概要

全学部

- 女性研究者・職員の増加に必要なことについて最も高いのは、「学内保育園の設置(あるいは、ベビーシッター費補助等)」(48.0%)である。次いで「男性の意識改革」(45.9%)、「女性研究者・職員の積極的採用」(42.7%)、「ライフイベント(育児、介護等)期間中の女性研究者の業績向上のための補助員等の人的支援」(41.9%)と続く。
- 本学の男女共同参画の現状については、「十分である」は4.3%。「まあ十分である」(29.2%)を合計すると33.5%である。
- 学内において変化があったことについて最も高いのは、「変化はない」(31.5%)である。次いで「理解が深まった」(26.9%)、「女性の役職者(職務給が発生する教学役職、事務管理職)が増えた」(17.7%)、「女性専任教員(専任教授、専任准教授、専任講師、助教、助手)の在籍比率が高まった」(15.9%)と続く。
- 男女共同参画推進活動に期待するものについて最も高いのは、「保育費用補助制度(夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の補助)の継続」(51.6%)である。次いで「研究と育児・介護の両立のための研究補助者派遣制度の継続」(42.4%)、「夕方からの公的な会議の廃止」(41.2%)、「教職員・学生を対象とした啓発セミナーの開催」(36.1%)と続く。

理系3学部

- 女性研究者・職員の増加に必要なことについて最も高いのは、「学内保育園の設置(あるいは、ベビーシッター費補助等)」(54.9%)である。次いで「女性研究者・職員の積極的採用」(50.8%)、「ライフイベント(育児、介護等)期間中の女性研究者の業績向上のための補助員等の人的支援」(48.7%)、「学童保育等に関する支援」(44.6%)と続く。
- 本学の男女共同参画の現状については、「十分である」は4.1%。「まあ十分である」(29.0%)を合計すると33.2%である。
- 学内において変化があったことについて最も高いのは、「理解が深まった」(39.4%)である。次いで「変化はない」(27.5%)、「女子学生の在籍比率が高まった」(17.1%)、「女性専任教員(専任教授、専任准教授、専任講師、助教、助手)の在籍比率が高まった」(16.6%)と続く。
- 男女共同参画推進活動に期待するものについて最も高いのは、「保育費用補助制度(夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の補助)の継続」(57.0%)である。次いで「研究と育児・介護の両立のための研究補助者派遣制度の継続」(52.8%)、「女性研究者・大学院生を増やす」(45.6%)、「学内保育園の設置」(39.4%)と続く。

アンケート調査票

関係各位

男女共同参画推進センター長

本学の男女共同参画および女性支援に関する意識調査(お願い)

日頃より、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」(2014～2016年度)にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2014年度より本事業を進めて参りましたが、本年度で終了となります。そこで、本事業の実施によって、本学構成員の男女共同参画推進の課題意識と女性研究者に対する支援についての理解が深まったかを把握する必要があると考えております。

つきましては、先般の「女性研究者研究活動支援事業の認知度および男女共同参画推進に関する調査」アンケート(2016年1月実施)にご協力を頂いて間もない時期に誠に恐縮ではございますが、次ページ以降のアンケートにご記入を頂き、添付の封筒に入れて本日ご提出頂くか、学内便で11月4日(金)までにご提出を賜りたくお願い申し上げます。

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、本事業の成果報告の一部として公表しますが、特定の個人が識別できる情報として公開されることはありません。また、調査結果は、本学における男女共同参画推進の目的にのみ使用いたします。

ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上

各設問のあてはまる選択肢の番号に○をつけ、必要に応じて()内にご記入ください。

回答者情報

※差し支えない範囲でご回答ください。

【年齢をお答えください】

- 1) 20～29歳 2) 30～39歳 3) 40～49歳 4) 50～59歳
5) 60～69歳 6) 70歳～ 7) その他

【性別をお答えください】

- 1) 女性 2) 男性 3) その他

アンケート調査票

【役職(職務給が発生する教学役職, 事務管理職)経験(現職含む)をお答えください】

- 1) ある 2) ない 3) 不明

【教職等の資格をお答えください】

- 1) 教員 2) 職員 3) 大学院生 4) その他

【教員・研究者・大学院生の所属をお答えください】

- 1) 法学部 2) 商学部 3) 政治経済学部 4) 文学部 5) 理工学部
6) 農学部 7) 経営学部 8) 情報コミュニケーション学部 9) 国際日本学部
10) 総合数理学部 11) 大学院(研究科) 12) 法科大学院
13) 専門職大学院 14) 研究・知財戦略機構 15) 国際連携機構 16) 社会連携機構
17) その他()

【教員・研究者・大学院生の職格をお答えください】

- 1) 専任教授 2) 専任准教授 3) 専任講師 4) 特任教授 5) 特任准教授
6) 特任講師 7) 助教 8) 助手 9) その他()

【職員の資格をお答えください】(職員のみお答えください)

- 1) 参事 2) 副参事 3) 書記 4) 書記補 5) その他()

本学の男女共同参画, 女性支援について

1 本学において男女共同参画を推進し, 女性研究者・職員を増やすために必要だと思われるものを選んでください(複数回答可)。

- 1) 女性研究者・職員の積極的採用
2) 評価委員・意思決定機関への女性の登用
3) 学内における女性研究者・職員のネットワーク構築
4) ライフイベント(育児, 介護等)期間中の女性研究者の業績向上のための補助員等の人的支援
5) ライフイベント(育児, 介護等)期間中の女性研究者の業績向上のための研究費等の支援
6) 学内保育園の設置(あるいは, ベビーシッター費補助等)
7) 学童保育等に関する支援
8) その他の研究とライフイベントとの両立支援(具体例:)
9) 女性の意識改革
10) 男性の意識改革
11) 評価委員・意思決定機関に登用されている役職者の意識改革
12) 女子中高生に対する積極的な働きかけ(特に理系への進学を促すための働きかけ・裾野拡大)
13) 特に必要ない(理由:)
14) その他()

アンケート調査票

2 本学の男女共同参画の現状についてお答えください。

- 1) 十分である
- 2) まあ十分である
- 3) あまり十分でない
- 4) 不十分である
- 5) その他

3 本事業の採択により、学内において変化があったと感じていることを選んでください(複数回答可)。

【男女共同参画推進に対する意識の変化について】

- 1) 理解が深まった
- 2) 周囲の意識が変わった
- 3) 役職者の意識が変わった
- 4) 学生の意識が変わった
- 5) 男女共同参画推進やワーク・ライフ・バランスについて話す機会が増えた

【女性の数について】

- 6) 女性専任教員(専任教授, 専任准教授, 専任講師, 助教, 助手)の在籍比率が高まった
- 7) 女性の役職者(職務給が発生する教学役職, 事務管理職)が増えた
- 8) 女子学生の在籍比率が高まった

【環境整備について】

- 9) 育児・介護と研究・仕事との両立が可能な環境が整備・改善された
- 10) 女子学生に対する教育・研究環境が整備・改善された

【その他】

- 11) その他()
- 12) 変化はない

4 本学の男女共同参画推進に関する活動として期待するものを選んでください(複数回答可)。

【女性研究者・大学院生について】

- 1) 女性研究者・大学院生同士の交流を深める
- 2) 女性研究者・大学院生を増やす
- 3) 女性研究者・大学院生のための賞を設ける
- 4) 分野や学部ごとに女性研究者の採用比率, 在職比率に目標値を設定する
- 5) 役職の一定数を女性に割り当てる
- 6) その他()

【意識改革について】

- 7) 教職員・学生を対象とした啓発セミナーの開催
- 8) 女子中高生に対する啓発活動(女性研究者の裾野拡大・啓発活動を通じた男女共同参画理解の促進)
- 9) 啓発ポスター等の掲示
- 10) その他()

アンケート調査票

【制度整備について】

- 11) 研究と育児・介護の両立のための研究補助者派遣制度の継続
- 12) 保育費用補助制度(夜間保育, 休日保育, 病児・病後児保育, 学童保育の補助)の継続
- 13) 休日・祝日等の託児の拡充
- 14) 夕方からの公的な会議の廃止
- 15) 「1コマ100分6講時制」導入に伴う授業担当についての配慮
- 16) その他()

【環境整備について】

- 17) 多目的トイレへのベビーシート・ベビーチェアの増設(希望する場所:)
- 18) 小学校の長期休業中(春休み・夏休み)の学内学童保育の導入
- 19) 学内保育園の設置
- 20) 男女ともに働きやすい環境整備(具体例:)
- 21) 学生(特に女子学生)に対する教育・研究環境の整備(具体例:)
- 22) その他()

【その他】

- 23) その他()
- 24) 特に期待することはない

5 本学における女性研究者研究活動支援, および男女共同参画推進について, ご意見がありましたらご自由にお書きください。



以上

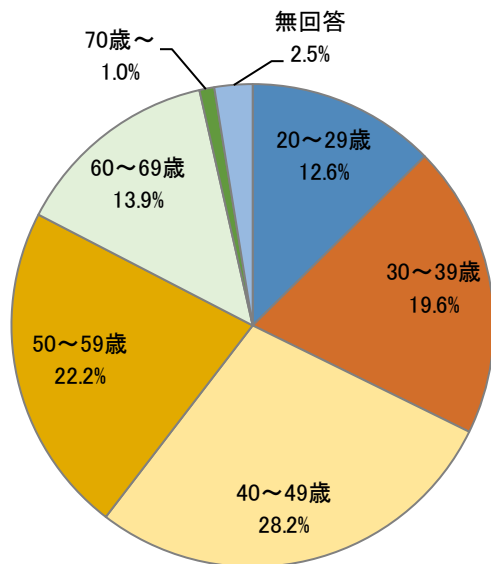
ご協力, 誠にありがとうございました。



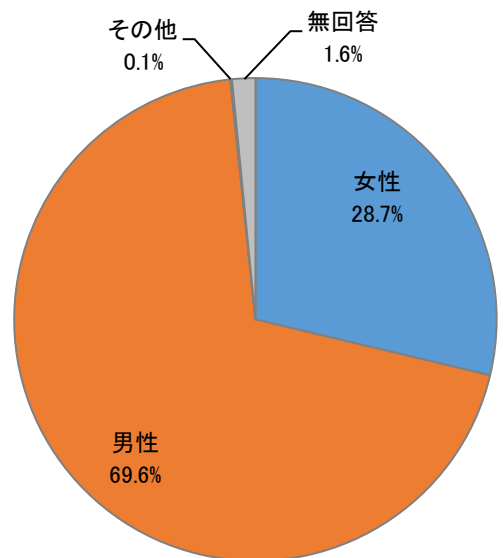
全体
(回答者数:902人)

回答者情報(全体)

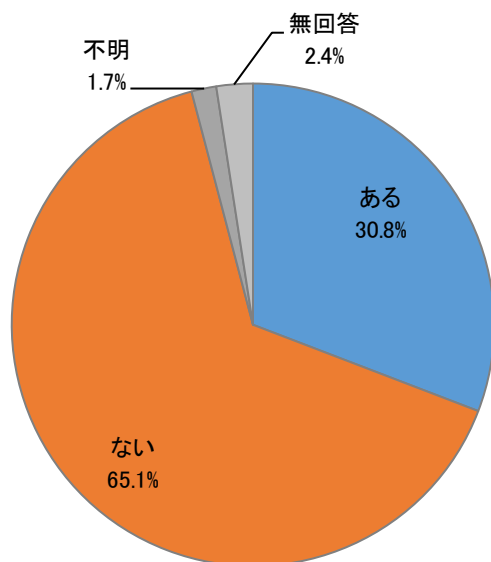
年代



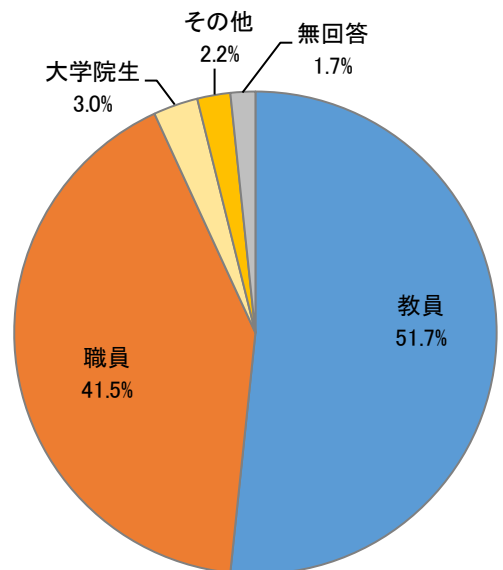
性別



役職経験

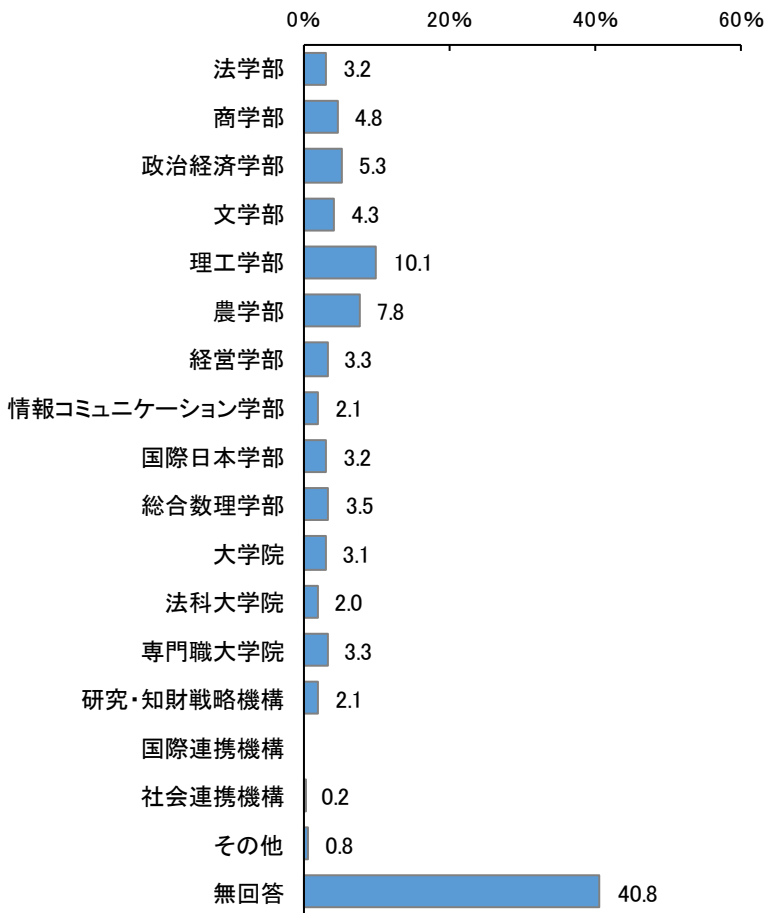


資格

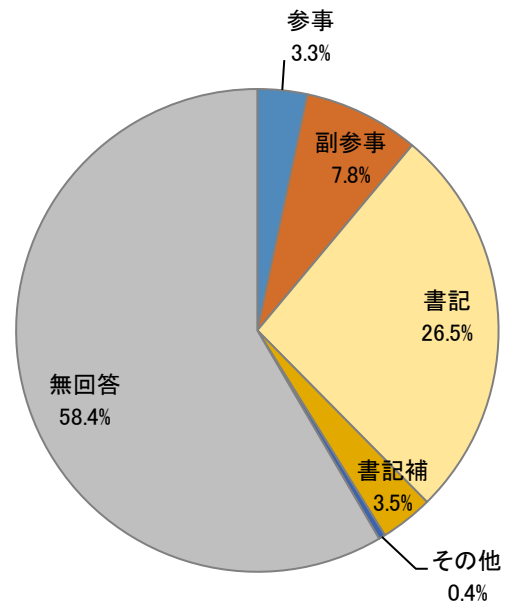


回答者情報(全体)

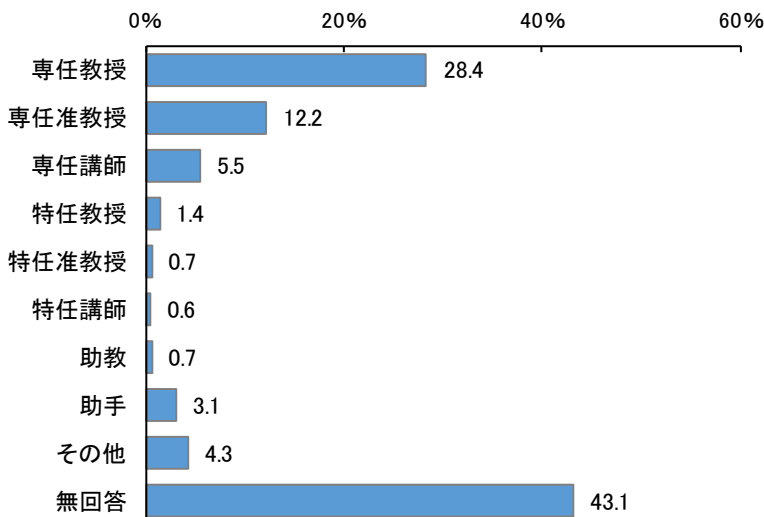
所属



職員の資格

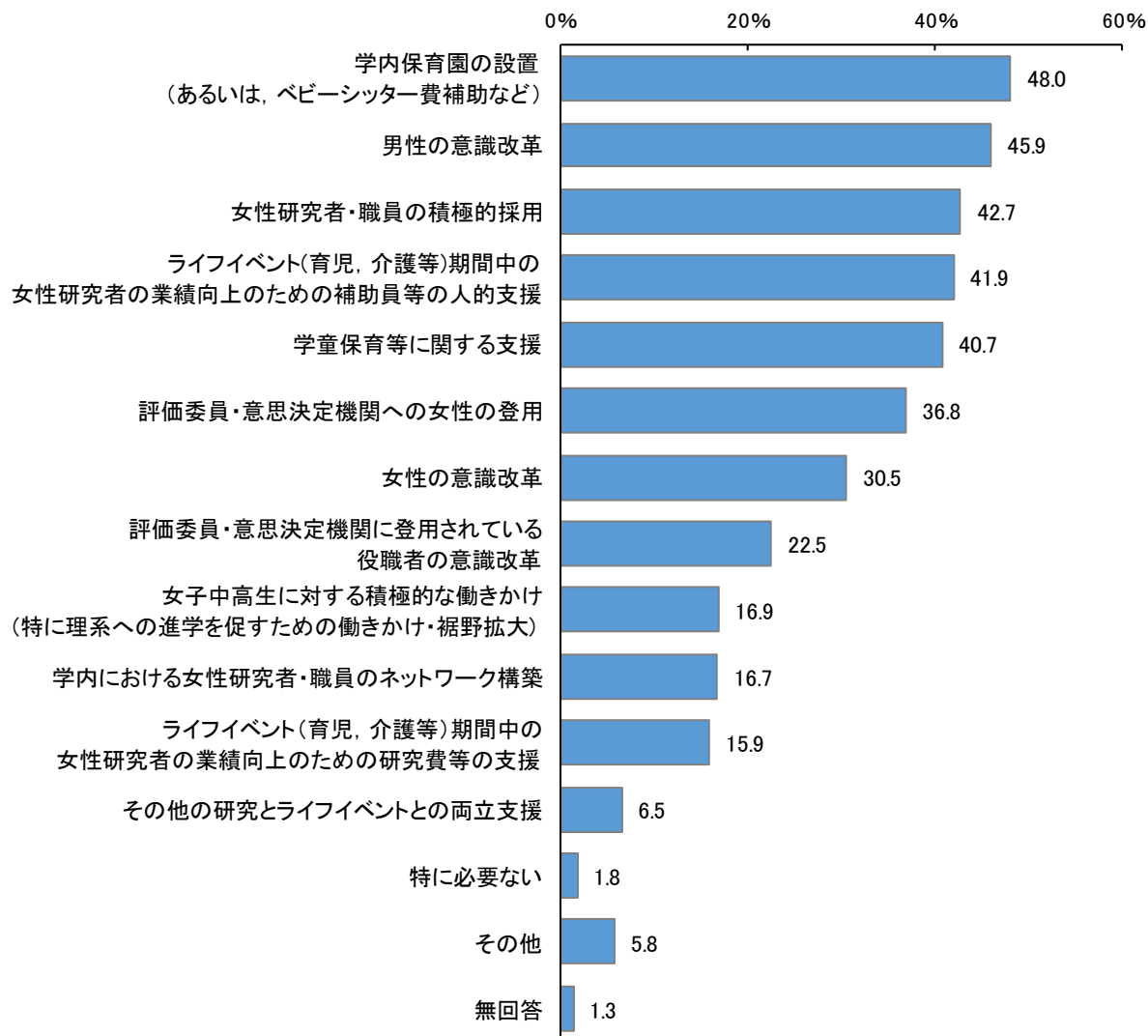


職格



女性研究者・職員の増加に必要なこと

1.本学において男女共同参画を推進し、女性研究者・職員を増やすために必要だと思われるものを選んでください(複数回答可)。



女性研究者・職員の増加に必要なこと

■自由回答(※一部抜粋)

<その他のライフイベントとの両立支援>

【教員】

- ・ 子連れ出張の補助等。
- ・ 授業時間割の調整、集中講義への一時的変更等。
- ・ 育児だけでなく介護も考慮してほしい。

【職員】

- ・ 男女問わず、両立できるゆとりを持たせる。
- ・ 在宅勤務の検討。

<特に必要ない>

【教員】

- ・ 優秀な人材を、性別関係なく採用すべき。

【職員】

- ・ 研究者はわかりませんが、職員は民間企業と比べるとはるかに恵まれており、周囲の理解もある。

<その他>

【教員】

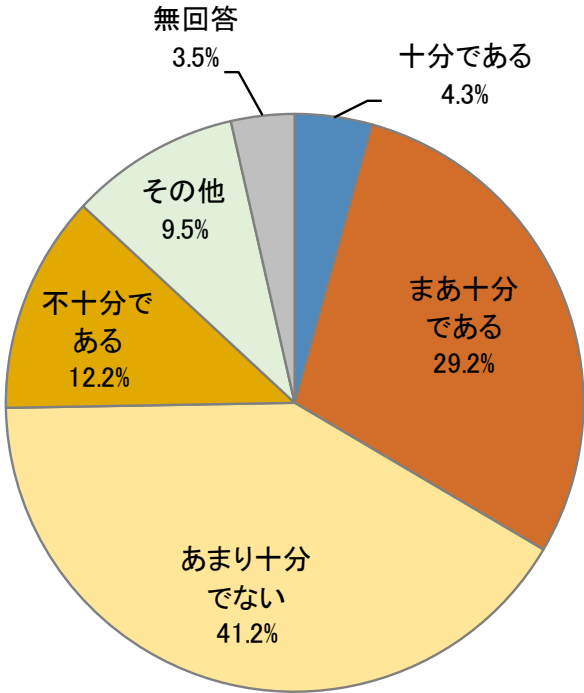
- ・ 保育費用補助制度を男性教員へも拡げる。現状のままでは男性差別と判断されても仕方ありません。男女共同ではありません。
- ・ 女性院生へのサポートをしてほしい ※一番経済的に弱い立場にあると考える。
- ・ 全学の委員等の負担の軽減 全学委員の場合は会議が5限終了後に行われるため、小学生以下の子を持つ親にとって負担が大きい。

【職員】

- ・ 女性だからという考え方でなく、研究者個人の成果を公平に評価できる評価組織が必要に思います。
- ・ コアタイム等、柔軟な業務形態の採用。※女性のための支援というより、家庭との両立のため、男女共に利用できる支援が望ましい。女性のみへの支援は、女性の自立につながらないとする。
- ・ 性別に関わらず、皆が働きやすい環境を整えれば自然と女性も増えるのでは。
- ・ 男性教職員を含め、保育しやすい職場環境整備 代替人員の確保等。
- ・ 男性管理職、理事の意識改革。
- ・ 必要だと感じさせること。何故女性を増やす必要があるかを説明し、学内で浸透させることが重要。女性の働きやすい環境を作る事は重要だが、男性にとっても必要なものとして考えて頂きたい。

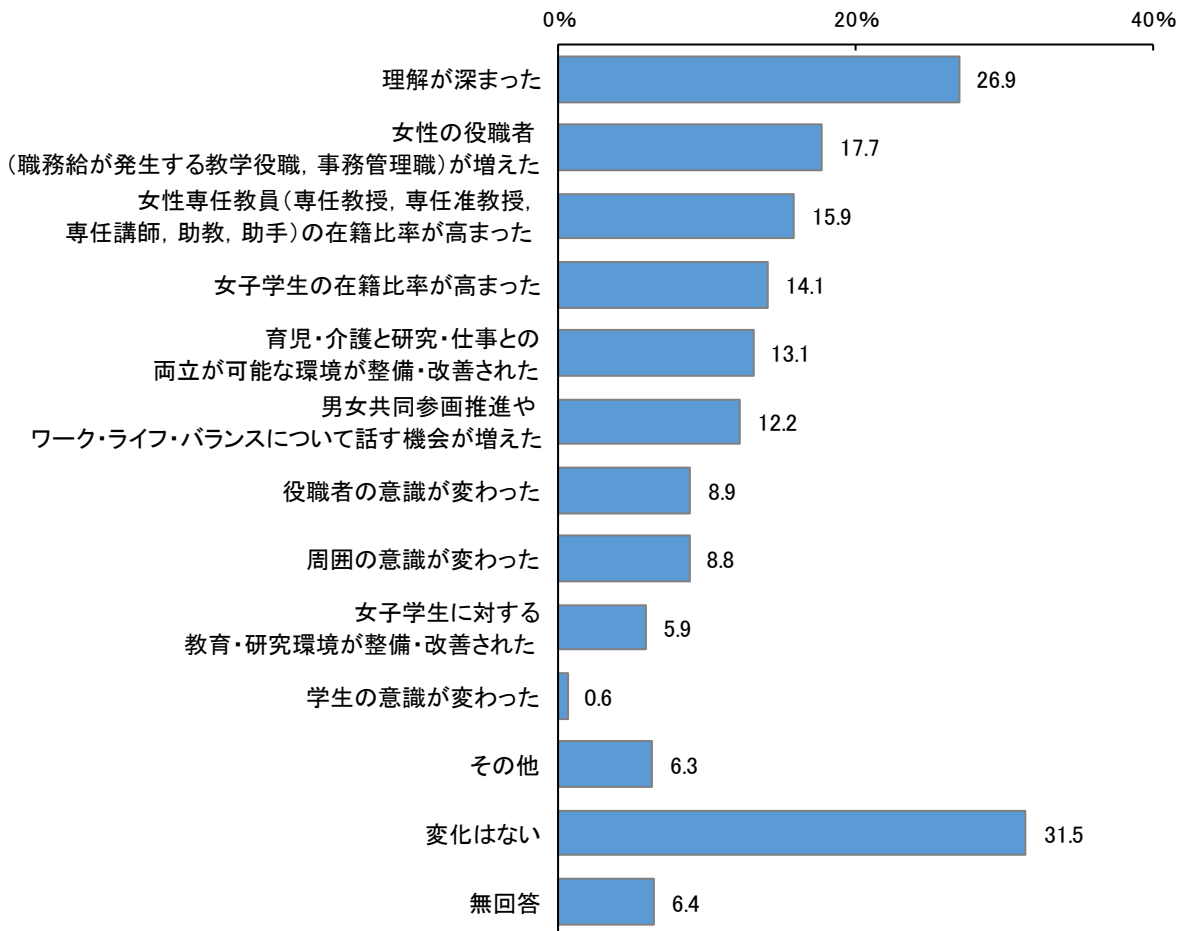
本学の男女共同参画の現状について

2.本学の男女共同参画の現状についてお答えください。



学内において変化があったこと

3.本事業の採択により、学内において変化があったと感じていることを選んでください(複数回答可)。



学内において変化があったこと

■自由回答(※一部抜粋)

<その他>

【教員】

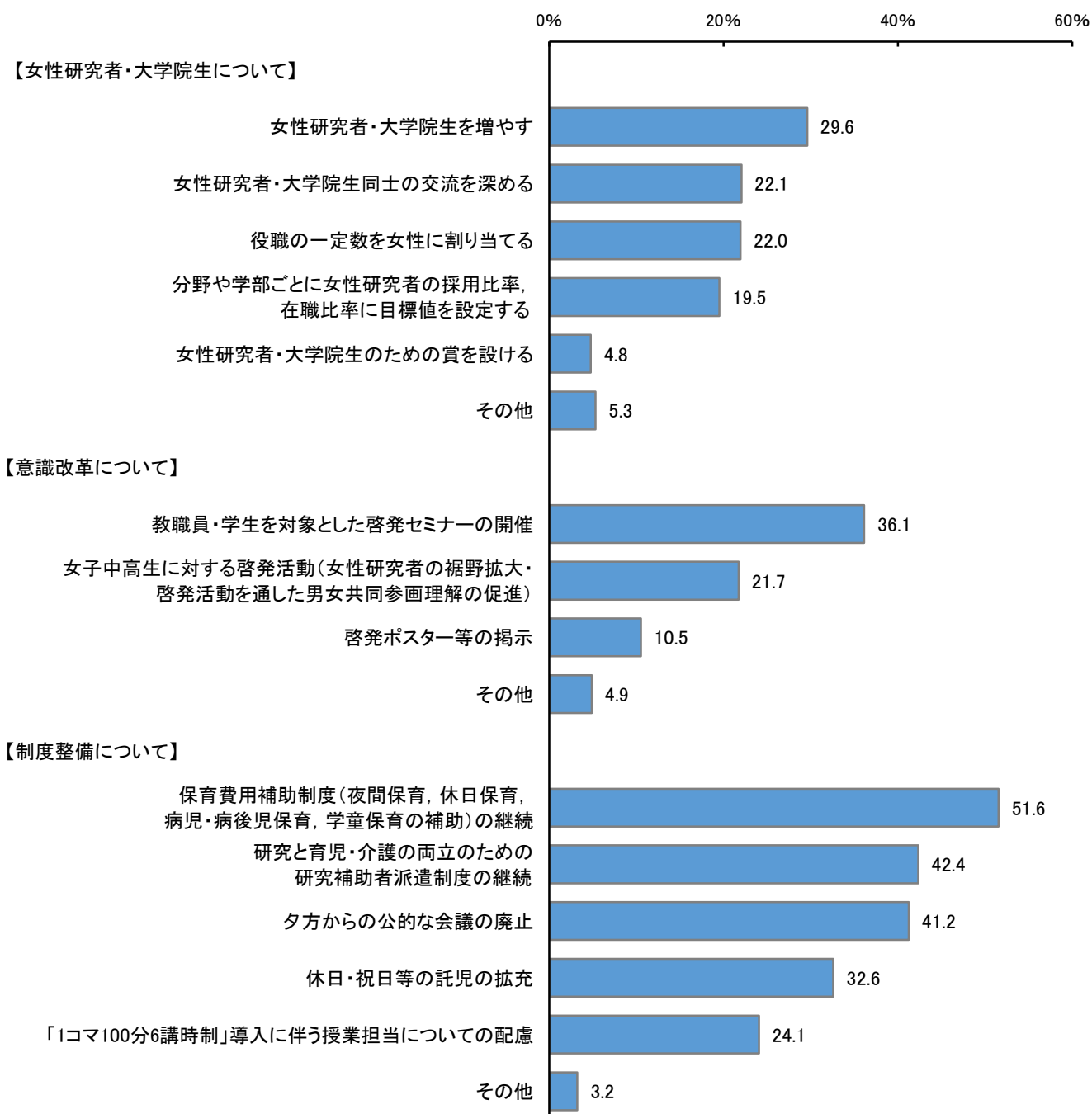
- ・サイエンスサポーター等の制度が新設された。

【職員】

- ・トイレへのベビーシート等の設置。
- ・まだまだ男性への働きかけ(意識改革)が必要だと考じる。

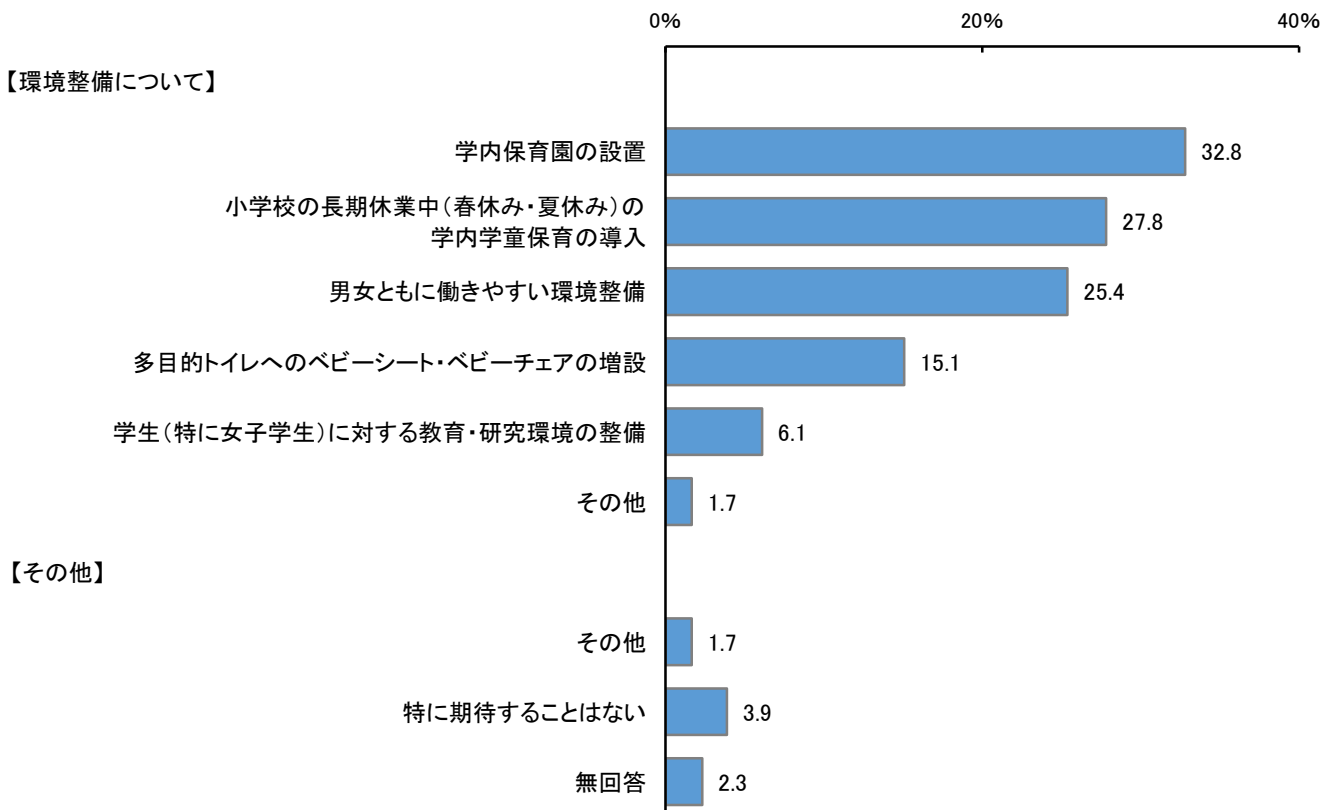
男女共同参画推進活動に期待するもの

4. 本学の男女共同参画推進に関する活動として期待するものを選んでください(複数回答可)。



男女共同参画推進活動に期待するもの

4.本学の男女共同参画推進に関する活動として期待するものを選んでください(複数回答可)。



男女共同参画推進活動に期待するもの

■自由回答(※一部抜粋)

<女性研究者・大学院生について:その他>

【教員】

- ・ 男女にかかわらず、労働環境をよくする。

【職員】

- ・ 女性だからという理由で登用するのではなく、正当な評価を男女共に用いることができるような仕組みを作る。
- ・ 当事者の声を吸い上げ検討、反映させる制度作り。
- ・ 教員同士の情報交換の場が少ないと思われます。職員は一体感があると思いますか。
- ・ 女性研究者が育児・介護をしながらパーマネントな職に就くために必要な条件が職員の耳には聞こえてこないため、共有できる活動を期待する。

<意識改革について:その他>

【教員】

- ・ 意識は制度変革によって改革されると思う。
- ・ 性別関係なく皆が活躍できるような意識改革が必要。育児や介護は女性だけの仕事ではないので、男女ともに育児・介護の支援制度を利用しやすい雰囲気がないといけない。また、独身の方にも育児や介護の負担があることが忘れられているのはよくない。

【職員】

- ・ 何故女性が働きにくいと感じるか、原因と分析の公表。
- ・ 大学の意思決定に女性が関わる機会が増えれば、(その様な役職を一定数女性が占める様になれば)意識が変化して来るのではないか。
- ・ 各授業において男女共同参画のテーマをとり入れる。
- ・ 魅力ある講演の実施。

【大学院生】

- ・ 女性研究者が実際にどのようなキャリアを歩んでいるかを知る機会が必要。

男女共同参画推進活動に期待するもの

<制度設備について:その他>

【職員】

- 全学的な会議のゾーニング。
(例)学部長会が水曜午後にあるので、学部長の出席しない全学的な会議を同じ時間帯で固定化する
- 成功例を見ていると、男性が育児休暇を取れることが、共同参画につながるように思う。
- 担当コマ数・業務・勤務時間の配慮。

<環境整備について(多目的トイレへのベビーシート・ベビーチェアの増設:希望する場所)>

【教員】

- 男性トイレにも?→これを設置することは印象的意味あいもある。

【職員】

- 院生のよく利用するフロア(共同研究室等)や研究室のあるフロア、もしくはその近場。
- 和泉キャンパス第一校舎。

<環境整備について(学生(特に女子学生)に対する教育・研究環境の整備:具体例)>

【教員】

- 女性の生き方セミナーを開く等意識を高めるプログラムを行う。

【職員】

- 休憩スペース(特に診療室閉室後)の設置。
- 理系で長時間研究室実験室ですごさざるを得ない場合の安全確保。
- パウダールーム、トイレの整備。

<環境整備について:その他>

【教員】

- 授乳室!
- トイレをきれいにする。(サニタリーボックス等の見直し)

【職員】

- 現状の環境の良い点と悪い点の調査とその公表。
- 一時保育、緊急避難的に使える託児。

【大学院生】

- 学内各所の段差の解消。

男女共同参画推進活動に期待するもの

<その他>

【教員】

- 留学生、海外からの客員の先生への配慮が足りない。留学生のお子様は公立・認可園へ入ることが大変難しいと思います。

【職員】

- 女性を支援するためには、同時に男性のことも考慮する必要がある。
- 長時間労働の是正、男女ともに意識改革が必要。

女性研究者支援、男女共同参画推進についてのご意見

5. 本学における女性研究者研究活動支援、および男女共同参画推進について、ご意見がありましたらご自由にお書きください。

■自由回答(※一部抜粋)

【教員】

- 「役職の一定数を女性に割り当てる」のは、良いとは思いますが、そもそも育児等をおこなっている人間が引き受けられる条件(午後5時頃までに全ての会議は終わらせる等)に大学全体のシステムを変える必要があると考えます。
- 家事代行の補助もあつたら良いのではないのでしょうか。(実際に一番必要とされる補助だと思います。)
- 学内に保育園を設置する取り組みをぜひ進めていっていただきたい。小さい子どもを持つ教職員・学生へのかなり大きな支援となると思う。
- 100分授業の時間割への配慮を全学でお願いします。
- 過去に見られたような、女性である故に不利であった状況は当然改善されるべきであるが、女性である故に能力の優れた男性を差しおいての採用をするようなことがあってはならない。却って女性に対する評価を低めるようになっては本来の目的に逆行してしまう。同等の能力の候補者の中から選ぶのであれば女性を優先とする、という方針に留めるべきである。
- 学内学童保育を導入する場合、小学6年生まで受け入れてほしい。
- 土曜の業務・研究に当たり、保育費用補助制度の充実を宜しくお願いします。
- 女性の社会進出が当然な社会になってきているが家庭の負担(育児、家事、介護)はあいかわらず女性がして当たり前という風潮が根強い。家庭の仕事に集中しないとならない時期に職場での男性の理解がほしい。特に、専業主婦の妻をもつ方、独身男性は理解しづらいように思う。
- 補助事業終了後(来年度以降)も支援(SS制度等)を継続していただきたいです。
- 現在も行なわれている活動ですが、以下の3点が特に重要であると考えます。①特に理系では女性教員の数少なく、現在本学で行われている女性教員増加の目標値の設定と実現への働きかけを継続して行うこと。②教員全体すなわち男性教員も含めて業務を減らすことが重要。一人の教員が25名近い学生の面倒(実験指導から論文作成まで)を見ながら、会議・会計までこなすのは大変な仕事量で子育てと両立するのは困難です。ただし、子育て中の教員の業務を減らせば周囲の負担が増加するという悪循環が生じます。③理系女子の分母を増やすこと。すなわち中・高生に理系のおもしろさを伝えるとともに、それのみならず将来、理科系の仕事について生きることの魅力についてアピールすることが重要である。
- 女性の働きやすい環境は男性にとっても働きやすい環境である。

女性研究者支援、男女共同参画推進についてのご意見

【職員】

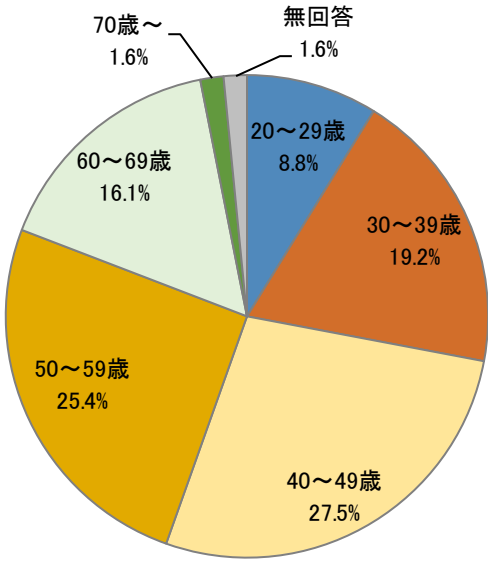
- 何をするにしても事前調査を行い、ニーズを拾いあげて、必要とされている制度、設備を作っただけならと思います。
- もはや意識改革では通用しないレベルだと思われる。行動しながら“改革”をすすめる段階に来ている。
- 具体的に1点、休日授業実施日、休日(土、日、祝日)の入学試験について子育て中の教職員の配置について弾力的な運用を求めたい。
- 制度設計ありきになり過ぎず、ロールモデル的な研究者ライフの発信を通じて帰納的に気運を高めることも良いと思います。
- 個人個人からは、女性の積極的登用を！ 管理職比率の増加を！という声が上がっているものの、どうしてもライフイベントがネックになり機会を逃す人が多いように感じます。全学的なトップダウンの取り決めとして、制度の充実をはかってほしいです。
- 「女性への」働きかけ以上に、男性への、あるいは男女ともへの働きかけが必要なのでは。家事・育児はやはり男女それぞれの責任であろうから。



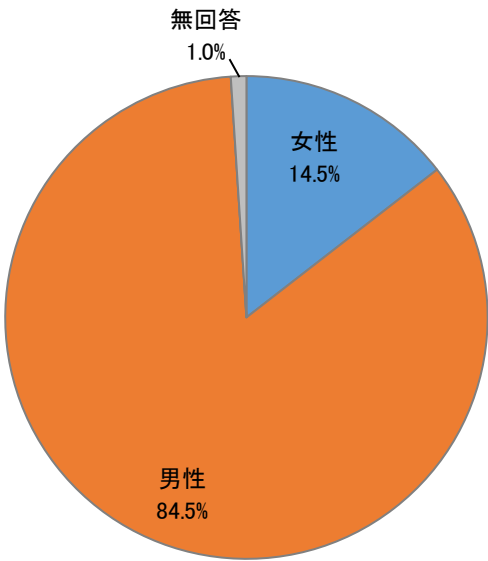
理系3学部
(回答者数:193人)

回答者情報(理系3学部)

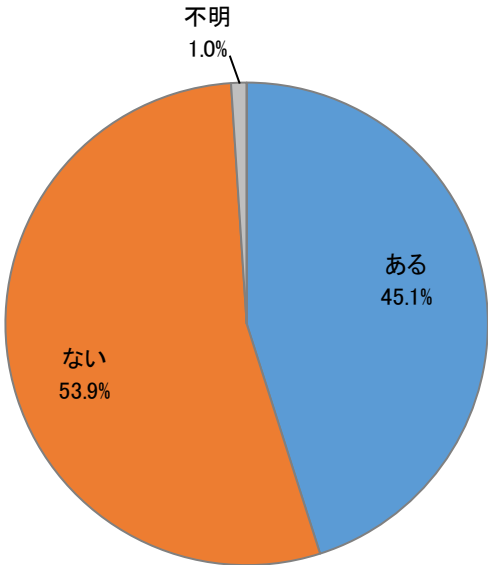
年代



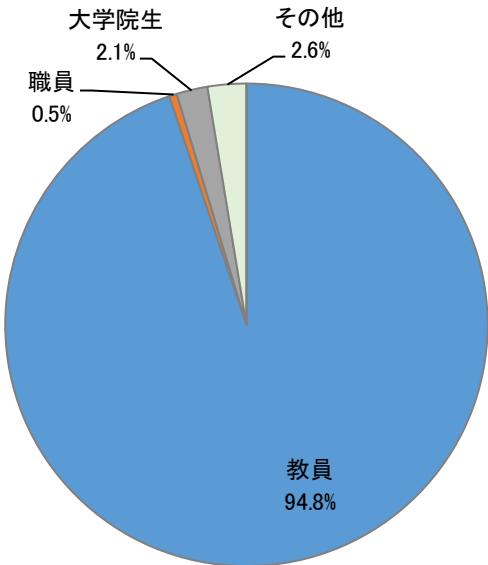
性別



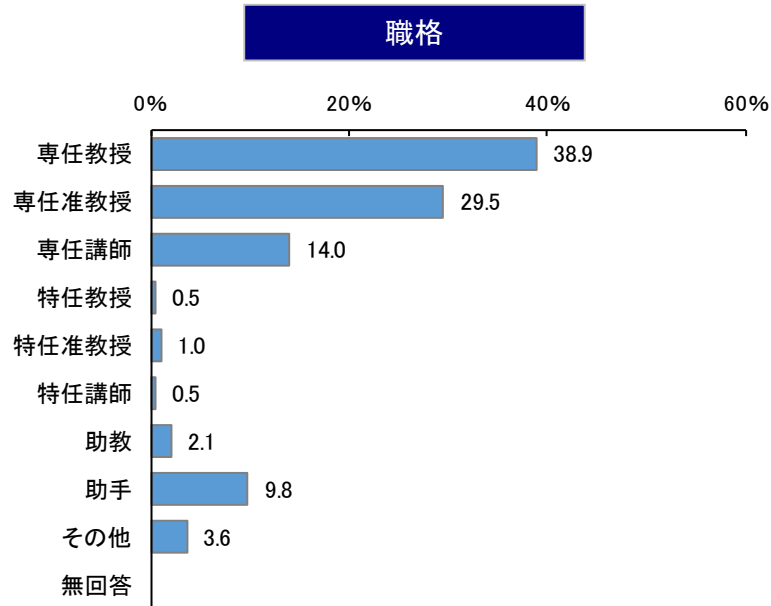
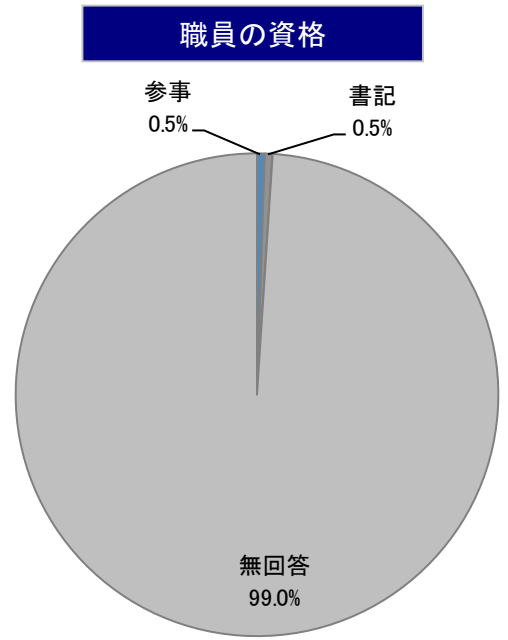
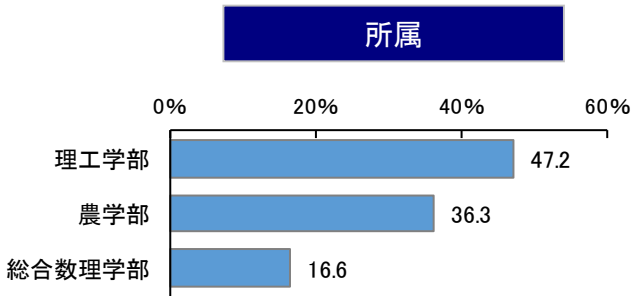
役職経験



資格

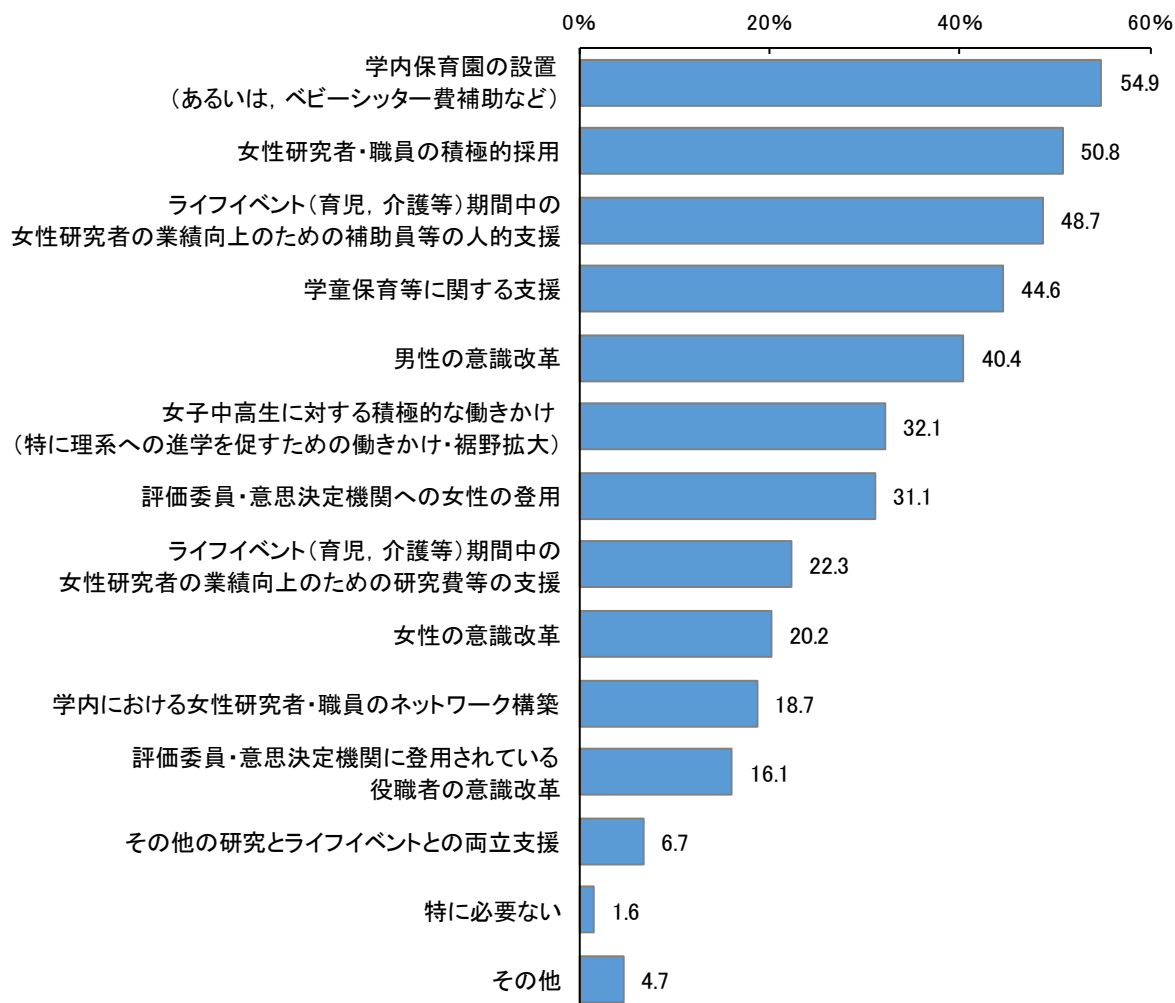


回答者情報(理系3学部)



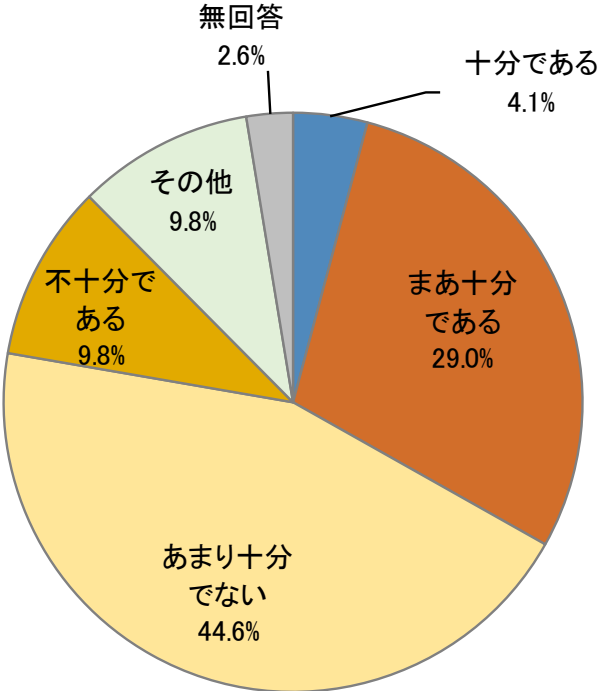
女性研究者・職員の増加に必要なこと

1.本学において男女共同参画を推進し、女性研究者・職員を増やすために必要だと思われるものを選んでください(複数回答可)。



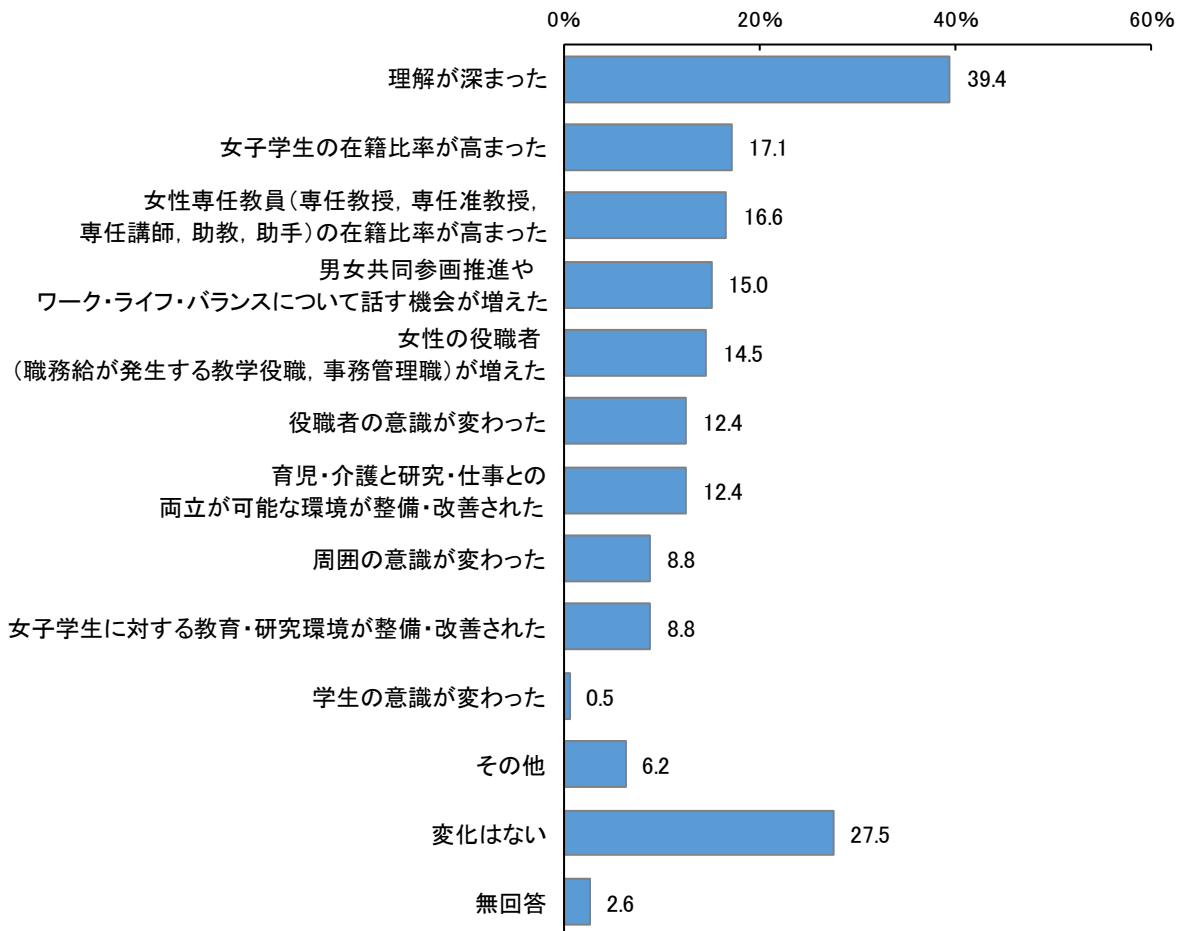
本学の男女共同参画の現状について

2.本学の男女共同参画の現状についてお答えください。



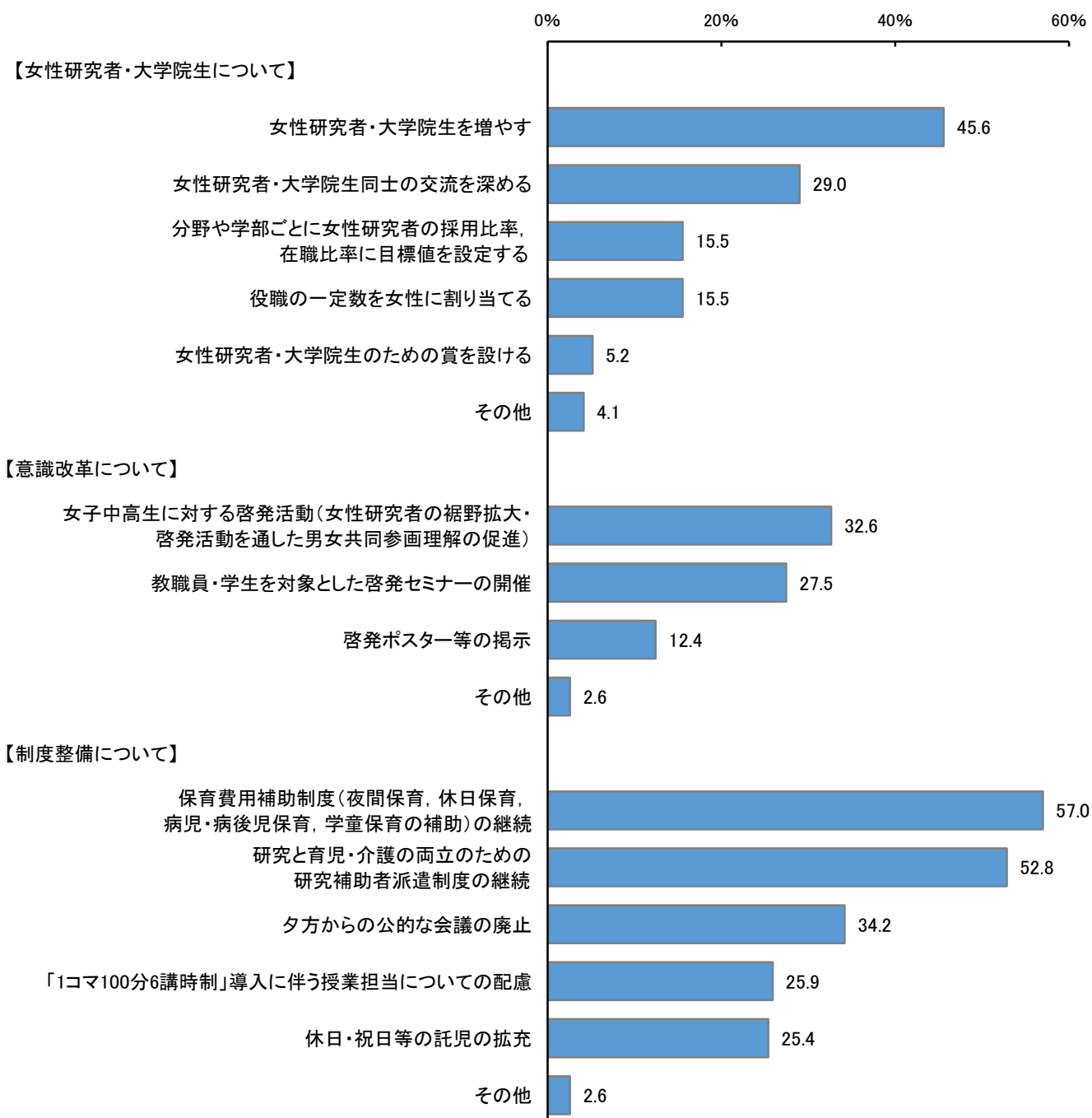
学内において変化があったこと

3.本事業の採択により、学内において変化があったと感じていることを選んでください(複数回答可)。



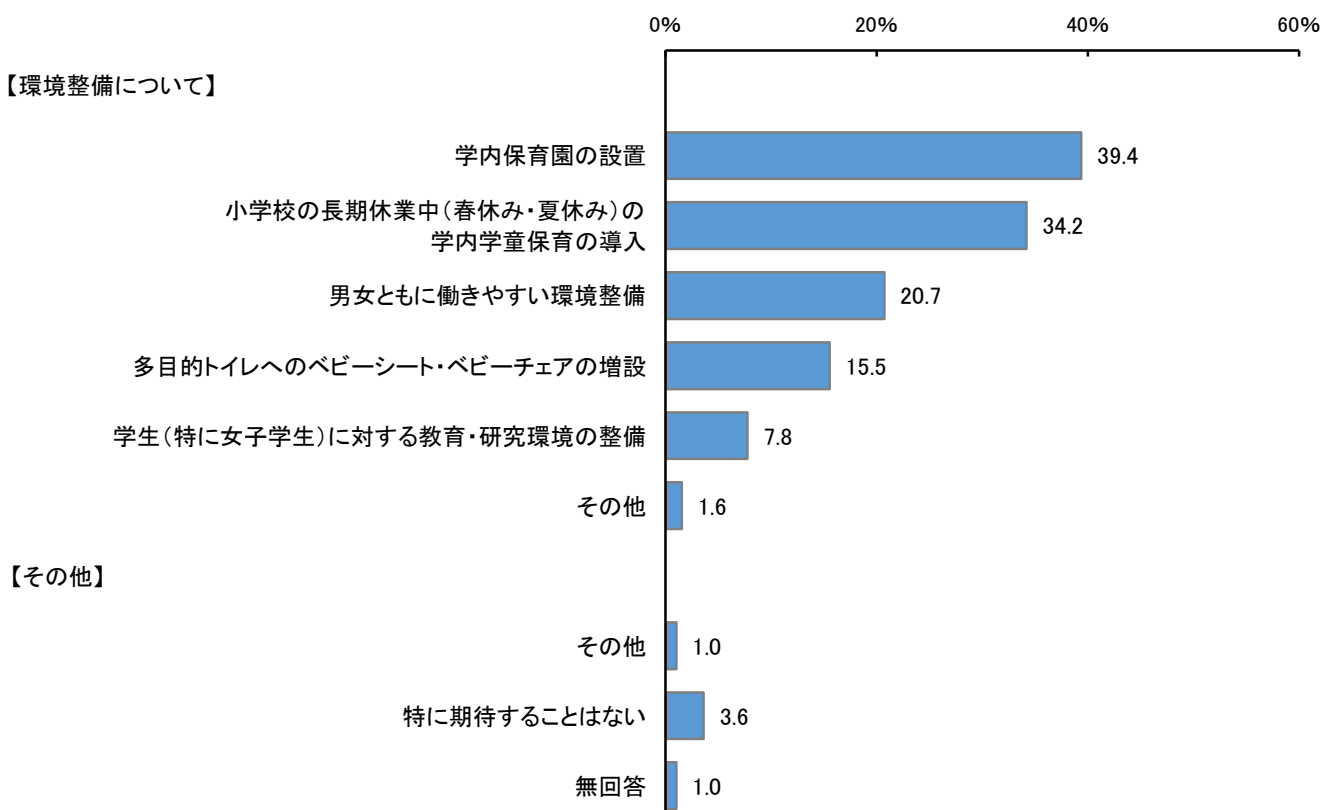
男女共同参画推進活動に期待するもの

4. 本学の男女共同参画推進に関する活動として期待するものを選んでください(複数回答可)。



男女共同参画推進活動に期待するもの

4. 本学の男女共同参画推進に関する活動として期待するものを選んでください(複数回答可)。





調查結果比較

女性研究者や女性職員を増やすために必要なこと

【前回調査】

『女性研究者研究活動支援事業の認知度および男女共同参画推進に関するアンケート』

実施要項

目的: 本学における女性研究者研究活動支援事業の認知度および男女共同参画推進に必要な活動や支援策について調査し、その結果を基に事業を一層促進させることを目的とする。

対象: 専任教員(教授会員)

方法: 教授会にて質問紙を配布し実施。当日回収および後日封書にて回収。

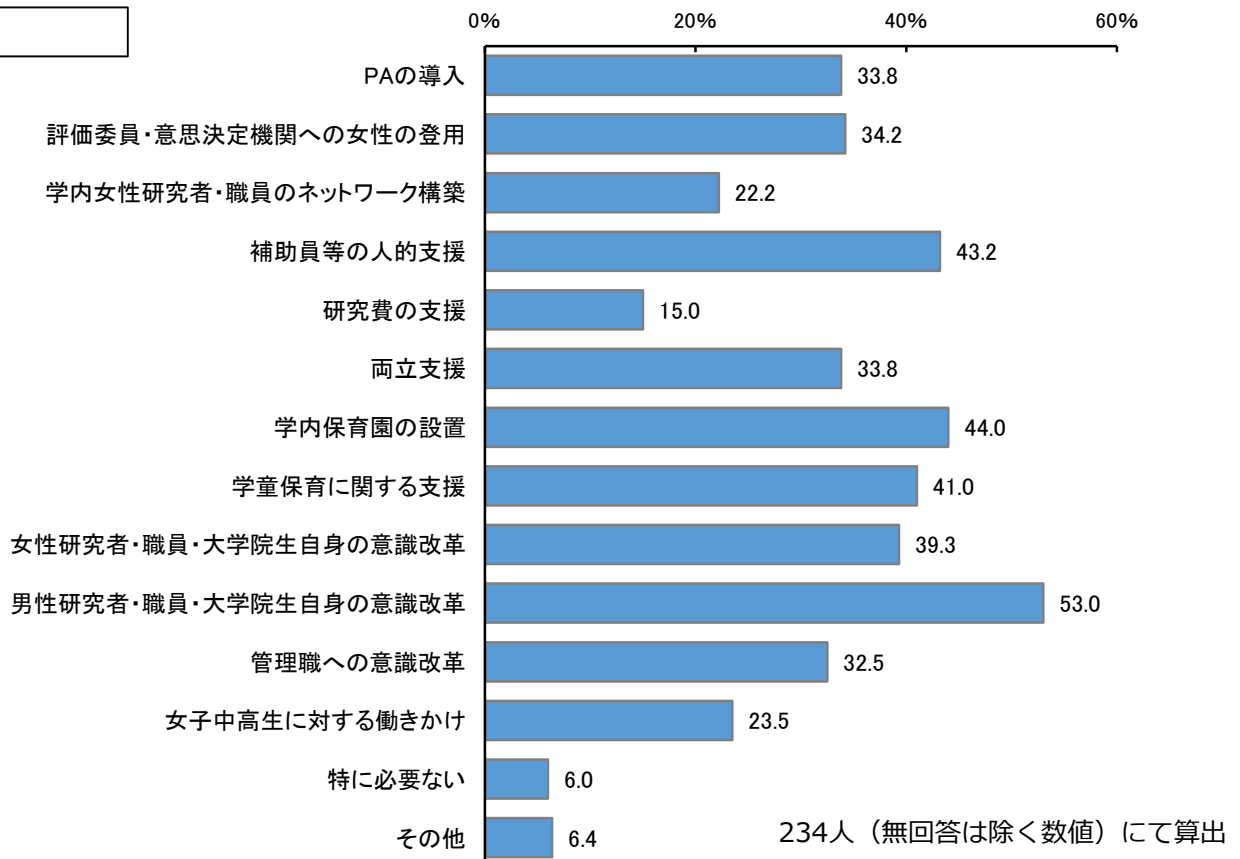
期間: 2016年1月18日～2016年2月5日

回答者数: 463人(989名中810名に配布。回答率57.16%)

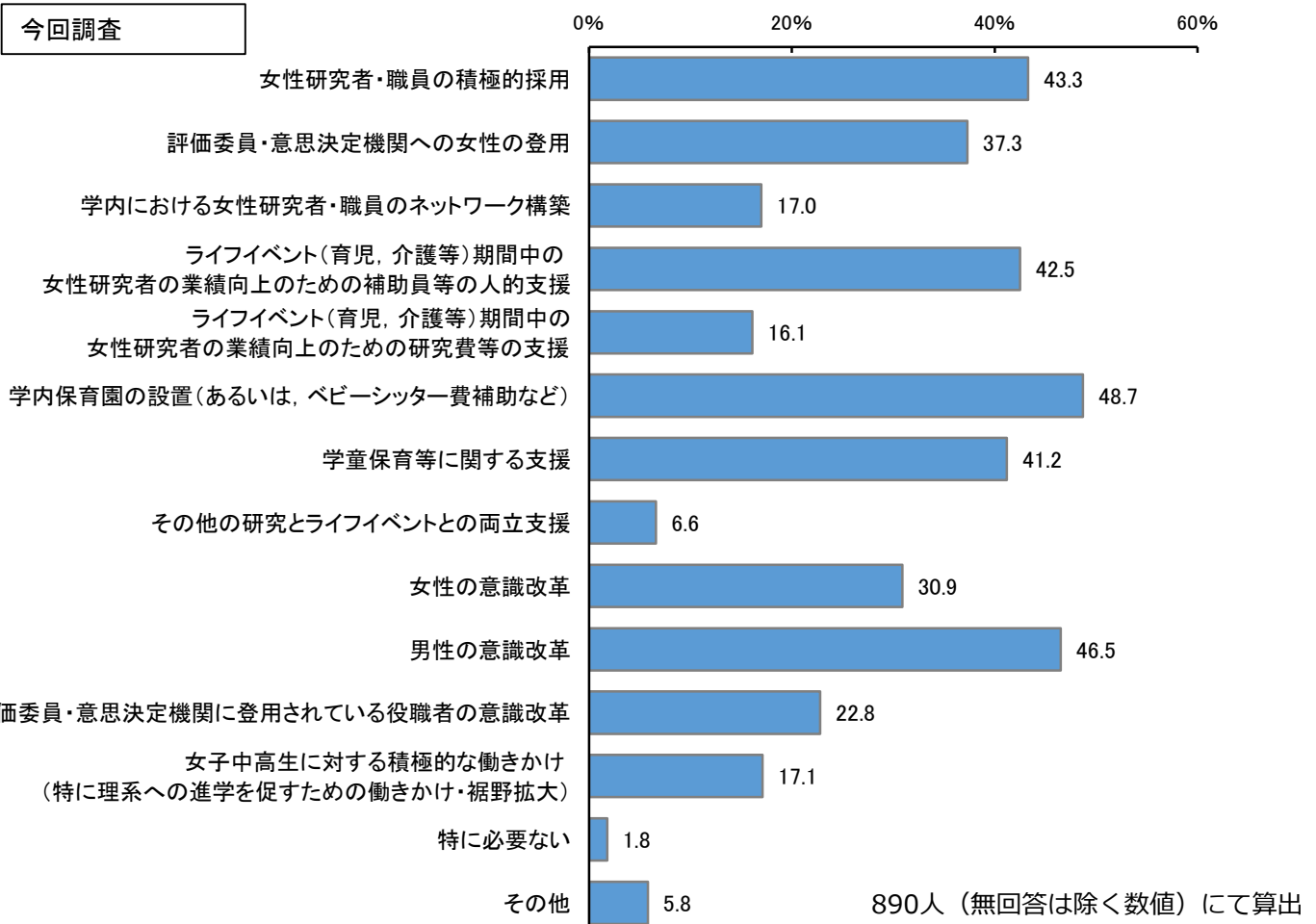
- 前回調査では、女性研究者や女性職員を増やすために必要なことについて最も高いのは「男性研究者・職員・大学院生自身の意識改革(53.0%)」である。次いで「学内保育園の設置(44.0%)」「補助員等の人的支援(43.2%)」と続く。
- 今回調査では、女性研究者や女性職員を増やすために必要なことについて最も高いのは「学内保育園の設置(あるいは、ベビーシッター費補助等)(48.7%)」である。次いで「男性の意識改革(46.0%)」「女性研究者・職員の積極的採用(43.3%)」と続く。

女性研究者や女性職員を増やすために必要なこと

前回調査

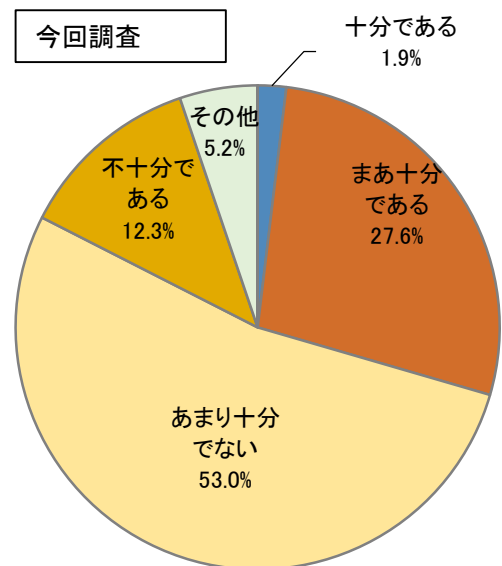
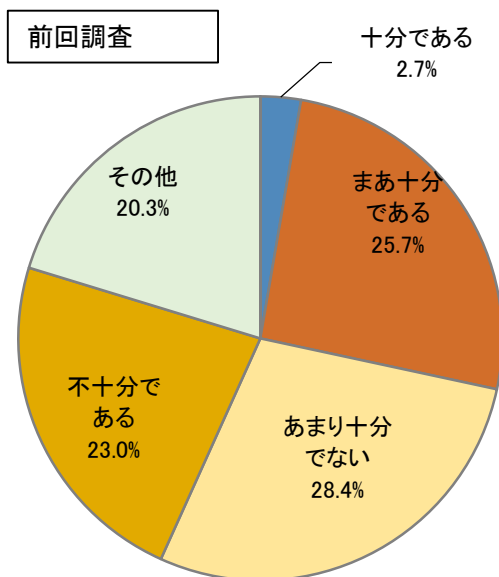


今回調査



男女共同参画の状況をどのように認識しているか

- 前回調査では、男女共同参画の状況をどのように認識しているかについて、「十分である」と「まあ十分である」を合計すると28.4%である。「十分でない」と「不十分である」を合計すると51.4%である。
- 今回調査では、男女共同参画の状況をどのように認識しているかについて、「十分である」と「まあ十分である」を合計すると29.5%である。「十分でない」と「不十分である」を合計すると65.3%である。



『男女共同参画および女性支援 に関する意識調査』 調査報告書

明治大学男女共同参画推進センター女性研究者研究活動支援事業推進本部

お問い合わせ先

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 アカデミーコモン7階

03-3296-4655

danjo@meiji.ac.jp

<http://muged.meiji.jp>



明治大学は男女共同参画とダイバーシティを推進しています

平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」